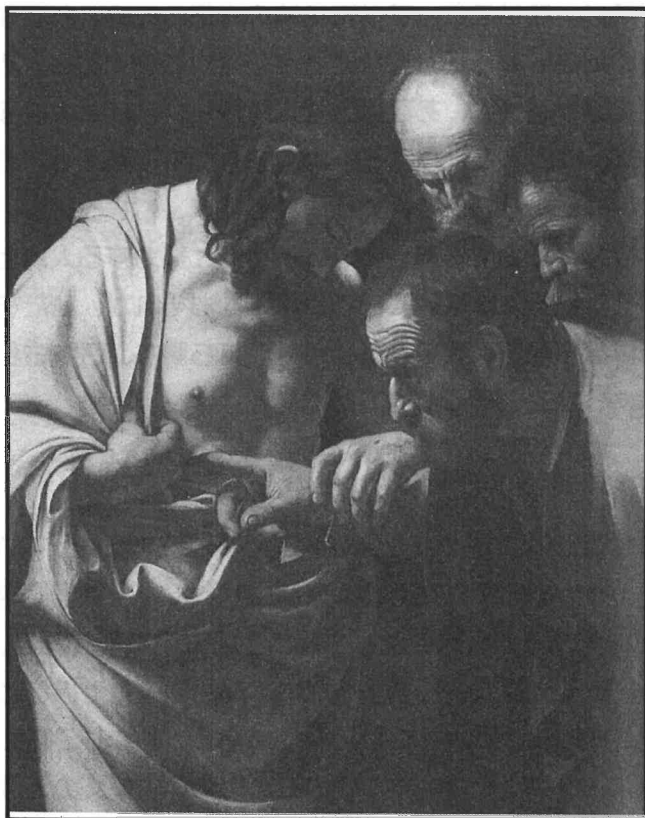


2008年(平成20) 4月

カルメル
霊性センターニュース



カラヴァッジオ「トマスの不信」

231号

DE IMITATIONE CHRISTI

キリストにならう

— バルバロ訳 —



第一巻

第三章 キリストに倣って、世のはかないものを軽んじる

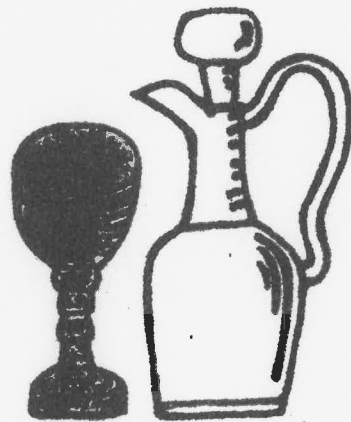
3 全ては神の栄光のために

自分のうちに潜心して、謙虚な心で生きれば生きるほど、人間は、勞せず多くのすぐれた事柄を理解するであろう。なぜなら、天から理性の光を受けるからである。清く単純でしっかりした心の人は、たくさんの仕事にも心を散らすことがない。なぜなら、すべてを神の光栄のためにおこない、自分を忘れ、自分の利益になることを探そうとしないからである。あなたの心にある抑えがたい欲望ほど、あなた自身を束縛し悩ますものはない。善良で信心深い人は、外でおこなうことを、まず心の中で整える。そうすれば、そのおこないは、よこしまに傾く欲に流されず、むしろ正しい理性の導きのままに動かし得るのである。自分に勝とうと努力する人以上に、恐ろしい闘いに耐えている人はないであろう。しかもそれが、私たちの第一の務めでなければならぬ。すなわち、自分に打ち勝ち、日々さらに強くなり、そしていくらかでも徳に進むことである。

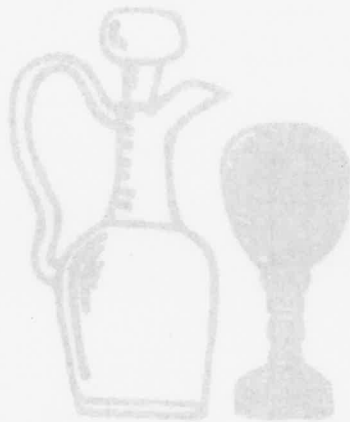
4 知識と良心

この世ではどんな完全なものにも、何らかの不完全なものが混じっている。私たちの探求にも、何らかの暗さがあるのをまぬがれない。謙虚に自分自身を知ることは、学問の深遠な探求よりも神に至る安全な道である。しかし、学問や知識も、おろそかにしてはならない。なぜなら、そのこと自体はよいことであり、神のみ旨によることだからである。しかし、正しい良心と徳のある生活は、つねにそれよりも尊いことである。多くの人はいくよくよく生きることよりも、知識を積むことに努めるので、そのためにしばしば過ちを生じ、知識を得ても、まったく、あるいはほとんどよい実を結ばないのである。

心の泉



泉の心



幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父 ocd
——現代の十字架の聖ヨハネ—— (16)



重要なのは愛であって
活動ではない

活動は 大きな愛によって
動かされているという
条件においてのみ 価値がある
私たちの大きな富
大きな力は 愛である

—幼きイエスのマリー・エウジェンヌ ocd

ご復活の祝日も過ぎ、四月の声を聞くと私たちのうちには何か新鮮な想い、何かがまた新しく始まる期待、希望に満たされるのではないのでしょうか。四月といえば日本では新学年、新学期、そしてまた新しい仕事の始まりの時です。もうそのような節目を過ぎた者にとっては、家族、知り合いなどを通して毎年「四月」の希望を新たにすることでしょう。

キリストを信じるものは、私たちの真の希望、それは復活されたキリストのうちにあることを今日あらためて確認しましょう。私たちの能力、可能性のうちにはではなく「神の果てしない愛」のうちにあることを。私たちが罪人であった時おん子を遣わしてくださったその父なる神の愛のうちに希望の錨を下ろすならば、平凡な日々は果てしない広がりをもつことでしょう・・・神の果てしない愛という広がり。

神の恵みを受けた者は自分自身のためだけに生きることはできない。ゆだねられた使命の中で、無条件に自分をささげつくすはずだ。教師であれ、看護婦であれ、料理人であれ、何であろうと、何をしようと役目は問題ではない。愛するだけで足りる。

ここでマリー・エウジェンヌ神父がいう愛とは、感情ではなく行動によって示される愛、「互いに愛し合いなさい」と言われたイエス・キリストの言葉を守ることです。そして祈りのうちに神の愛に浸り、その愛によって変えられ、新たにされて（私たちが感じるものがなくても）いくのです。

伊従 信子
ノートルダム・ド・ヴィ

『必要なことは、ただ一つだけ』(34)

ルドルフ・デ・スーザ OCD (カルメル会)

視覚の靈化

あなたが事故に遭い、盲目になったと、ちょっと想像してみてください。この種の体験の中へ真剣に入り込み、あなたのすべての反応を調べてください。目を開けようとする誘惑が起きますが、じっとそのままとどまり、簡単にあきらめないでください。自分自身に、「もう二度と見えないだろう」と告げてください。目が見えないなら、あちこち動くことがどんなに難しいかを想像してください。その時、あなたの行きたい場所にたどり着くことは、どれほど難しいことになるのでしょうか。あなたは二度と自分の体や自分の顔を見ることはできないでしょう。これに加えて、友達顔も見ることができないでしょう。笑っている顔や悲しみの顔も、もう見ることはできないのです。それは、あなたにとってつらい経験となるでしょう。この黙想の終わりには、あなたは目の価値に気づき、百万ドルもらっても、自分の目を危険にさらしたくないと思うでしょう。ですから、この体験を終える時には、視覚という貴重な賜物に対し、神に深く感謝しましょう。

この感覚を靈化する他の方法は、被造物における神の栄光を見ることです。小さな虫や蟻が動いているのを見る時でも、神を賛美しましょう。神の命は、すべての被造物の中に流れているからです。被造物を見るあなたの目を訓練するならば、靈的な目覚めへと自己訓練しているのです。すべてを信仰の目を通していつも見ているならば、その実践的具体的信仰体験は、あなたの神体験を高めることでしょう。すべてを神の栄光のゆえに眺めるならば、祈りの間、気を散らすこともないでしょう。そうすることは、むしろ神に注意を集中することを助けてくれるでしょう。さまざまな判断や考えや先入観によってぐちゃぐちゃにされている私たちの心ですべてを見るならば、何も私たちを目覚ますことはないのです。

視覚の隠れた能力を発展させ、解放する他の靈的活動があります。それは、美の知覚です。私たちの周りにある美をしっかりと見るために、私たちは生き生きとしていなくてはなりません。美は、それ自身の輝かしい価値が知覚される現実そのものです。すべてのものは、それが本物であるかぎり、美しいのです。

人々を見ること

私たちは目に見える物や人を超えて見るように、自己修練することができます。私たちは皆、他者の体を直接見ます。唇の動きや目の開け閉め、口の線や顔の変

化、体の表現そのものを、行動の全体として見ています。人そのものは、見る事ができません。人の目に見えない側面が、もし目に見える側面のように簡単に見わけられるならば、まったく新しい人間性を、あなたは生きていることになるでしょう。私たちのすべての考え、感情、気分、想像、夢、空想などは、目に見えませんが、私たちの企て、秘密、野心に属するすべてのこと、私たちのすべての希望、恐れ、疑い、困惑、また私たちのすべての愛情、思考、熟慮、ためらい、また私たちのすべての要求、憧れ、欲求、感動、好き嫌い、嫌悪、魅力、愛、憎しみなどは、目には見えませんが、一本の木を見、その内部で、あるいはその背後で、木を完全に生かし機能させている叡智を黙想してください。葉は生じ、また落ちます。樹液は滴り、時が来れば、花を咲かせます。そこには、木を生かし続けている生命力があります。私たちにはその生命力を見る事はできませんが、現実のものであります。それゆえ、見るということは、外的な側面を観察するという事以上のものなのです。神は目に見えませんが、その美しさはさまざまな方法で確かめられます。それゆえ、十字架の聖ヨハネは、逆説的に、こう言っています。

すべての被造物の美しさは、神の無限の美しさと比べれば、まったく醜いものでしかない。神へ靈的に方向づけられることなく、被造物の美しさに執着する者は、神の御目には醜さそのものである。したがって、そのような靈魂は、神の美しさへと変容されることはない。というのは、醜さは美しさと両立しないからである。

被造物のすべての愛らしさ優美さは、神の優美さに比べれば、まったく不快な味気ないものにすぎない。それゆえ、被造物の愛らしさ優美さに心が捕われている者は、神の御目にはこの上もなく不快で味気ない者となる。このような者は、神の無限の優美さと美しさを受け取ることはできない。なぜなら、不快なもの限りなく優美なものとの間には、きわめて大きな相違があるからである。この世の被造物のすべての善も、神の無限の善に比べれば、邪悪であるとさえ言える。神以外に善きものは何もないからである（ルカ 18：19）。心をこの世の良いものに置く人々は、神の御目にはきわめて悪しき者となる。邪悪は善を理解しないように、そのような人は、至高の善である神と一致することはできない。

すべてのこの世の知恵や人間的手腕などは、神の無限の知恵に比べれば、まったくの単なる無知にすぎない。（『登』1, 4, 4）

時々私たちは、被造物の美を見、それにすっかりとらわれてしまい、すべての美しいものの作者である神へ心向けなくなってしまうのです。（続）

九里 彰訳

ヘンリ・ナーウェンの

『旅路の糧』

(109)



愛を選ぶこと

彼もしくは彼女が体験しているものの、全部ではないにしても大部分が、愛とは反対のもの、すなわち恐れや憎しみや暴力や虐待である場合、どのようにして人は、無制約的な神の愛の存在を信じることができるのでしょうか。

彼らを被害者と決めつけてはなりません。彼らの心の内には、隠れて見えないのですが、愛を選び取る可能性が残されているのです。ぞっとするような拒否を体験し続け、非常に残酷な拷問のもとに長い間いた多くの人々も、愛を選ぶことができたのです。愛を選ぶことによって、彼らは単に人間性の回復の証しとなったばかりでなく、あらゆる人間的愛を越える神の愛の証しともなったのです。憎しみや恐れの中、小さなスケールであっても、愛することを選ぶ人々は、私たちの世界にまことの希望を提供してくれる人々なのです。

(0614)

愛の証し

私たちの日常が人間として生存する権利を主張するよう絶えず呼びかけている時、どのようにして私たちは、神に無限に愛されていることを知るのでしょうか。

無条件的に愛されていることに気づくことは、本や講義やテレビ番組や講習会からは与えられません。霊的な気づきは、言葉や行いで私たちに神の愛を証ししている人々から与えられるのです。これらの人々は私たちの身近な人々であるかもしれませんが、はるか遠くに住んでいる人々かもしれませんし、またずっと昔、生きていた人々であるかもしれません。彼らの証しは、神の愛の真実を告げ、それと一致して行動するよう私たちに呼びかけるのです。

(0617)

くのり 九里 彰訳

復活第三主日 A ㊦ 24, 13-35

「イエスご自身が近づいてきて、いっしょに歩き始められた。しかし、二人の目はさえずられていて、イエスだとは分からなかった」(㊦ 24, 15-16)。

イエスが復活されたその日の夕方、二人の弟子は、エマオへの道を歩みながら、「暗い顔をして」、ナザレのイエスの生涯を、その墓が空であったことも含めて、思い起こしています。今日、私たちが信仰宣言において宣言しているすべてを彼らは知識としては知っていたのです。それにも関わらず、「暗い顔をして」、希望もなく歩んでいる。この二人の弟子たちの姿に、実は、わたしたち自身の姿を見るのではないのでしょうか。イエスが、わたしたちの救いのために十字架に死に、また、わたしたちの救いのために復活された。この宣言が、復活祭の一過のお祝いで消えてしまい、その後には、「暗い顔をして」平凡な日常生活に戻って行き、信仰を知らない世間と同じように生きている、それが私たちの現状ではないのでしょうか。

「主は復活した」、この信仰の宣言が、真実なものであるためには、この二人の弟子たちに、また、わたしたちには何が欠けているのでしょうか。今日の福音は、三つの要点を指摘しています。その一つは、共同体の中での積極的な信仰体験の分かち合いです。信仰生活が、自分一人の興味を満たすものになり、共同体建設への積極的な関心から離れて行くとき、イエスの復活に基づくキリスト教的信仰は、生気を失って行くのです。第二には、聖書の学習です。旧約、新約聖書を通して、神の知恵、慈愛に満ちた知恵、人間の知恵を延長したところに発見できるものではない、本当に私たちを愛し、救う神の知恵を学ぶのです。第三に、共に生きる小さい人びと、困苦欠乏の中に生きている隣人への心配り、気付きが、続きます。この二人の弟子が、見知らない旅人を、一緒に宿に泊まるように誘ったとき、彼らは、イエスとは気付いていません、自分たちと同じように旅に疲れ、しかし、どうも泊まる当てもない人のようだとしか見えていません。その境遇を察しての思いやりから、求められる前に、声をかけます。『一緒にお泊まりください。そろそろ夕方になりますし、もう日も傾いていますから』と言って、無理に引き留めた」のでした。共同体、聖書の学び、隣人への配慮は、「パンを裂く式」、聖体祭儀に収斂しています。こうして、「二人の目は、開かれてイエスだと分かった」(㊦ 24, 31)。主の受難と復活を記念する聖体祭儀を積極的に生きる時、復活の喜びが私たちを変えてゆくのです。

ルカ 渡辺幹夫

復活節第4主日（A）

わたしが来たのは、命を得させ、しかも豊かに得させるためである。

ヨハネ10：1～10

ある豊かな郊外の教区の司牧者が日曜学校の子供たちに話していました。司牧者として自分は羊飼いで、生徒たちは羊のようなものだと子供たちに話しました。それから彼は子供たちに「羊飼いは羊のために何をしょう？」と質問しました。前列の小さな子が手をあげて、「羊飼いは羊の毛を刈ります」と答えました。確かに、羊飼いは羊の毛を刈り、乳をしぼり、えさを与えるような仕事をします。しかし、聖書が神の民の指導者を羊飼いというとき、よい羊飼いが彼の群れにするように、羊にえさを与え、保護し、可哀想に思う指導者のことを考えます。

ヘブライ語の聖書の標題になっている「羊飼いは、民を牧する神に当てはめられています。このことは、詩編23の「主は私の牧者」（答唱詩編）で表わされています。ここでは神は、群れが何にも不自由せず、敵（狼やライオン）に囲まれていても悪を恐れることがなく、幸福と豊沃（“緑の牧場”）へ導き、あらゆる危険（“やみの谷間”）から安全にまもってくれる忠実で、よい羊飼いとして描かれています。

神の呼びかけに対する羊飼いの背信のために、神はご自身がよい羊飼（エゼキエル3：15～16）になると民に約束されました。自分は「命を得させ、しかも豊かに得させる」（ヨハネ10：10）ためにやって来たよい羊飼いであると言われたイエスにおいて、この約束は成就しました。イエスは自分の群れをまもるためにご自身の命を犠牲にするよい羊飼いです。

イエスはこの世を去る前に、イエスの子羊の世話をするように、イエスの羊を牧するよう、ペトロに権限を委任されました。神の群れを牧することは、頭としてのペトロとともに全教会にゆだねられている今も続いている仕事です。ですから、わたしたちは二つの重要な質問に自ら答える必要があります。(1) わたしは神の群れの忠実なメンバーでしょうか？ 羊飼いの道案内に従う羊だけが緑の牧場に到着し、飢えた狼から安全であるように望むことができます。(2) どのようにしたら神の群れを牧する仕事にもっと緊密に参加することができるでしょうか？ 司教や司牧者、また日曜学校の先生やアシスタントなど全ての人たちが神の群れを牧することにさまざまな形で参加しています。どのようにしたらわたしが自分のおかれた立場で、よりよい羊飼いになれるでしょうか、わたしを通してよい羊飼いであるイエスの愛深い声を聞けるようになるため、教会や社会の弱者や落後者を理解し同情を寄せることができるでしょうか？

(Sr. Paulina)

復活節第五主日A ヨハネ14, 1-12

「わたしを見た者は、父を見たのだ」(ヨハネ14, 9)。

太宰 治の作品に、「富嶽百景」と言う富士山にまつわる短編を集めたものがあります。その中の一つを、あらすじを話せば、こうなります。ある日、太宰は、友人と共に、富士をよく眺望できると言われる峠に登ります。しかし、峠の茶屋に着いてみますと、霧が出てきて視界が0と言う状態でした。茶屋のおばあさんが、大変残念がって、奥に入って、大きな写真の額縁を持ち出してきました。おばあさんは、展望台の腰掛けの上に立ち、額を高々と掲げます。その写真は、峠から見た富士山でした。おばあさんは、霧の世界を背景にして、小さい体で精一杯つま先立ち、重い額を掲げて、言ったのです。「いつもは、富士山が、こんな風に見えるんです」。太宰は、友人に言っています。「良い富士山を見た」。本物の富士は、濃い霧のベールの中、見えているのは、おばあさんの思いやりと真剣さの両手に掲げられた写真の富士。霧が濃くて、本物の富士を見ることができなかつたことをも、残念とも思わなかつた。

『フィリポが「主よ、私たちに御父をお示してください。そうすれば満足できます」と言うと、イエスは言われた。「フィリポ、こんなに長い間一緒にいるのに、私が分かっているのか。わたしを見たものは、父をも見たのだ」。イエスは、御父を私たちに見せることに真剣でした。あの「富嶽百景」の写真の富士を掲げるおばあさんのように、十字架の上で、両手を広げ息きたえるイエスの姿、実に、この姿が、御父の実像そのものなのです。人間たちの欲望に動かされた空想が描き出したものでも、人知を尽くした哲学が推論したものでもなく、御父の愛が、描いたものです。もし、十字架のイエスの死の苦しみの姿が、御父の実像と少しでも食い違うものであったとしたら、そこには、イエスの復活はなかつたでしょう。

御父は、今も、深い神秘の雲に包まれています。しかし、十字架に釘付けにされた、そして復活させられたイエスの姿がわたしたちの目の前にはあります。そして、そのイエスに倣おうとするわたしたちの姿が。日々の困難、試練を生きるわたしたちの生き方を見る人々が、すべての生命と愛の究極の源泉、神とその遣わされた御子を見たと思わず告白される日は、いつ来るのでしょうか。

ルカ 渡辺幹夫

復活節第六主日 (A) (ヨハネ 14,15-21)

「わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてくださる。」

ノルウエーの偉大な探検家で南極を発見したロゥアルド アムンゼンは、その探検の旅に家で飼っている鳩を連れて行きました。彼は妻に言いました。わたしが世界の果てに到達したとき、この鳩を飛び放とうと。彼の妻は、それから何日も何日も独り、孤独の中で夫が約束したこの鳩の帰りを待つ、空を見上げていました。すると、ある日、寝室の窓からあの鳩が空高く旋回しているを見つけました。「彼は生きている!」と彼女は叫びました。「わたしの夫は生きている!」と。

イエスが弟子たちを残し、去ってゆく準備をしておられるとき、イエスは、鳩によく象られている弁護者を弟子たちに送ると約束なさいました。アムンゼンが彼の妻のところへ送った鳩と、イエスが弟子たちに送られた弁護者との間には非常に大きな違いがあります。イエスは弟子たちにとって弁護者でした。そしてもう一人の弁護者を約束なさいました。イエスは気落ちしている弟子たちを慰めることばで勇気づけられます。「わたしは、あなたがたをみなしごにはしておかない。あなたがたのところに戻って来る。…そしてわたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてくださる。」 イエスはいつも私たちとともにとどまり、私たちの気持ちの緊張状態や試練を知り、絶えず御父に新しく生き生きした神の霊を、私たちの上に注いでくださるように嘆願しておられます。ですから私たちは心から確信することが出来ます。イエスは、私たちがイエスのように歩み、イエスのように話し、イエスのように愛し、イエスのように御父に従っていくことが出来るように、私たちに強め力づけてくださる霊をいつも与え続けておられることを。私たちの内にあるイエスの力のおかげで、私たちは勇気ある者となり、イエスの御名によって偉大なことを行い、どのような戦いにも挑み、生活の中にある障害を乗り越えていくことができるのです。

聖霊—神が与え得る最上の賜物—は私たちと同伴し、私たちに慰め、困難なときに助け、必要なときには私たちに代わって代弁して下さいます。信仰のない人たちも互いに慰め合いますが、聖霊をいただいている私たちの連帯はもっと深く、もっと素晴らしく畏敬の念を起こさせます。霊的生活のすべて、聖性のすべては御父からイエスを通して聖霊の働きによってもたらされます。もし私たちが、時折このことを考えるセンスを持つなら、私たちが互いに心から聖霊を共有したとき偶々どのようなことが起こっているかに気づきます。聖霊は、私たちの何気ない親切、相互の愛に満ちた関心、そしてインスピレーションの関心の内に存在しておられます。 (Sr. Paulina)

十字架の聖ヨハネ こぼれ話(13)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

野うさぎ(2)

くだんの聖人は修道院から出て、すでに修道院の菜園とぶどう園の近くまで迫ってきていた火事の方へ行き、そこでひざまずきました。火事はとてつもなく大きく、炎は聖人の頭の上を通り過ぎ、家のバルダ(枝葉の覆い)に及び、燃え移ろうとしていました。聖人は、この炎の下にいましたが、まもなく、火事はバルダやその近くにあったさほど重要でないいろいろのものを焼くこともなく、突然、後退しました。聖人はひざまずいたままでしたが、火事は聖人に何の危害も加えませんでした。これらのことを、この証人とその場にいた他の修道士や労働者たちが目撃しました。すべての人がこのことを、私たちの主が、くだんの聖人を通してなされた奇跡だと見なしました。その後、教会の近くの門の所に何人かの修道士がいたのですが、修院長は、この証人に、教会の中にたちこめていた煙を外に出すために、教会の門をすべて開けるように言いました。彼は、門の一つを開けに行くと、どうやら火事を恐れて隠れていたと思われる小うさぎを見つけました。この小うさぎは、そこから逃げ出し、菜園のそばで他の修道士たちと一緒にいたヨハネ修父の所へ飛んで行きました。そして、修父の修道服の中に飛び込んだのです。他の修道士たちはこのうさぎを捕まえました。耳をつかまえたのですが、二度、逃げ出し、二度とも、くだんの聖人の所へ行き、その修道服の中に飛び込みました。すべての人は、これらのことを私たちの主の偉大な奇跡、驚異と見なしました。

うさぎのことでは、こぼれ話のジャンルに入るものとして、アシジの聖フランシスコの生涯に見られる貴重な例も挙げることができます。それについては、チエラーノのトマスが語っています。

グレッチョの端に住んでいた時、ある第三会員が、わなで捕まえた、まだ生きている野うさぎの子を、聖人に贈りました。小うさぎの姿にフランシスコの心ははいたく動かされ、こう言いました。「兄弟、子うさぎよ、向こうへ行きなさい。どうしてお前はわなにだまされてしまったのか」と。運んできた本人によって解放されるやいなや、子うさぎは聖人の膝の中へ、あたかも安全な場所であるかのように逃げ込み、そこでしばらくじっとしていました。聖人は父親のような愛で愛撫しながら、まったく自由になって森へもどれるように、別れを告げました。しかし、地面に置かれた時に、子うさぎは聖人の腕の中へもどってしまったのです。結局、何人かの修道士が、そこからあまり遠くない牧草地に連れてゆくことになりました。同じことがペルーザ湖の島でも、家畜のうさぎとの間に起きました。(続)

…ケリトの水にうるあされて…

カルメルの聖人たちの祈り

19. 幼いイエスの聖テレーズ (1873-1897) — その4

テレーズ・マルタンは、フランスのアランソンで、大変愛情深く敬虔な家庭に生まれた。4人の姉のうち3人は、リジュー・カルメル会における修道生活においても姉妹となった。

1888年、15才でカルメル会に入会。正式な修道名は「幼いイエスと尊き面影のテレーズ」であった。テレーズは聖人になりたいと望んでいた。他の聖人たちのように偉大なことはできないと知っていたが、それでも預言者、司祭、宣教師、使徒になって五大陸を駆けめぐりたかったのである。ある日、彼女は自分の使命が教会の心臓の中で愛となることであることに気がつく。彼女が見出した靈的幼子の小さな道には、何でもないような小さなことをイエスに捧げることが含まれていた。彼女は自分自身の弱さそのものをイエスに捧げ、他人に気付かれることも評価されることもない小さな事柄を行う機会を探し、静かに謙遜に奉仕した。テレーズは「神のいつくしみの愛」に身を捧げた。自分が神のあわれみに頼らなければならないこと、神のあわれみは神の正義に勝るものであることを信じていたのである。彼女は神の腕の中にいる子どものように、完全に自分を神に委ねきっていた。結核が重くなってからも、長上への従順によって、自叙伝を書き記した。最も深い信仰の暗夜を体験しながらも、喜びをもって苦しみを受け、1897年に帰天。1925年列聖。1927年、聖フランシスコ・ザビエルと並ぶ宣教の保護者に上げられ、1997年、教会博士の称号を受けた。



幼いイエスの聖テレーズ

—— 祈り ——

おお私の神よ、私は自分のみじめさを見ても決して落胆いたしません。「医者が必要とするのは丈夫な人ではなく病人である」というあなたの言葉を思い起こし、信頼を持ってあなたのもとに参ります。ですからどうか私を癒し、おゆるしてください。主よ、私は「多くゆるされた者は、多く愛するはずである」ことを忘れません！……私の心臓の鼓動のすべてを、愛と僕いの業としてお捧げし、それをあなたの無限の功德に合わせます。おお、神である私の花婿、どうかあなたご自身が私の靈魂の癒し手となり、私の抵抗を顧みず、私の中でお働きになってください。もう私はあなたの意思以外の意志を持ちたくはないのです。(Sr.マルタのために作成された「聖櫃のイエスへの祈り」より)

万軍の神なる主よ、あなたは福音の中で「わたしは平和ではなく、剣をもたらすために来た」と言われました。戦いのために私を武装させてください。私はあなたの栄光のために戦う熱意に燃えています。でもどうか私の勇気を強めてください……。そうすれば聖王ダビデと共に、「主よ、あなただけが私の剣、私の手を戦いのために鍛えてくださる方……」と叫ぶことができます。

おお、愛するお方よ！ あなたがどのような戦いを私のために考えてくださっているかを、私は知っています。それは地上の戦いではありません……。

私はあなたの愛の囚われ人です。私をあなたに結びつける鎖を、私は進んで作ります。それは、私を、あなたが呪われた世から永遠に引き離します……。私の剣は、愛以外にはありません。愛の剣で、王国から異邦人を追い払いましょう。あなたの神的な力に服そうとしない靈魂たちの中で、あなたが王と宣言されるようにいたしましょう。

主よ、あなたは私のような弱い道具を必要としてはおられないでしょう。でも、汚れなく勇敢な、あなたの花嫁ジャンヌは言いました、「神が勝利を与えてくださるよう、私たちは戦わなければなりません」と。おお、私のイエスさま、私はあなたの愛のために、生涯のタベまで戦いましょう。あなたは地上で休息することを望まれなかったのですから、私もあなたの模範にならいたいのです。あなたの神聖な唇からこぼれ出た次の約束が、私に中で実現することを希望します。「わたしに従うなら、わたしのいるところに、わたしに仕える者もいることになる。わたしに仕える者がいれば、父はその人を大切にしてくださる。」

あなたとともにいること、あなたのうちにいることだけが、私の唯一の望み……。この望みの実現をあなたは私に確信させてくださいますから、私はこの島流しの日々を耐えることができます。永遠に顔と顔を合わせてお会いできる栄光の日が来るのを待ちながら！（ジャンヌ・ダルクの御絵に着想を得た祈り）

* * * * *

この記事は、跣足カルメル在俗者会員ベニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., URL <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(注)タイトル中の「ケリトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは鳥に命じて、そこであなたを養わせる(1列 17:3-4)」ということばに由来しています。

(泰阜カルメル会訳・編)

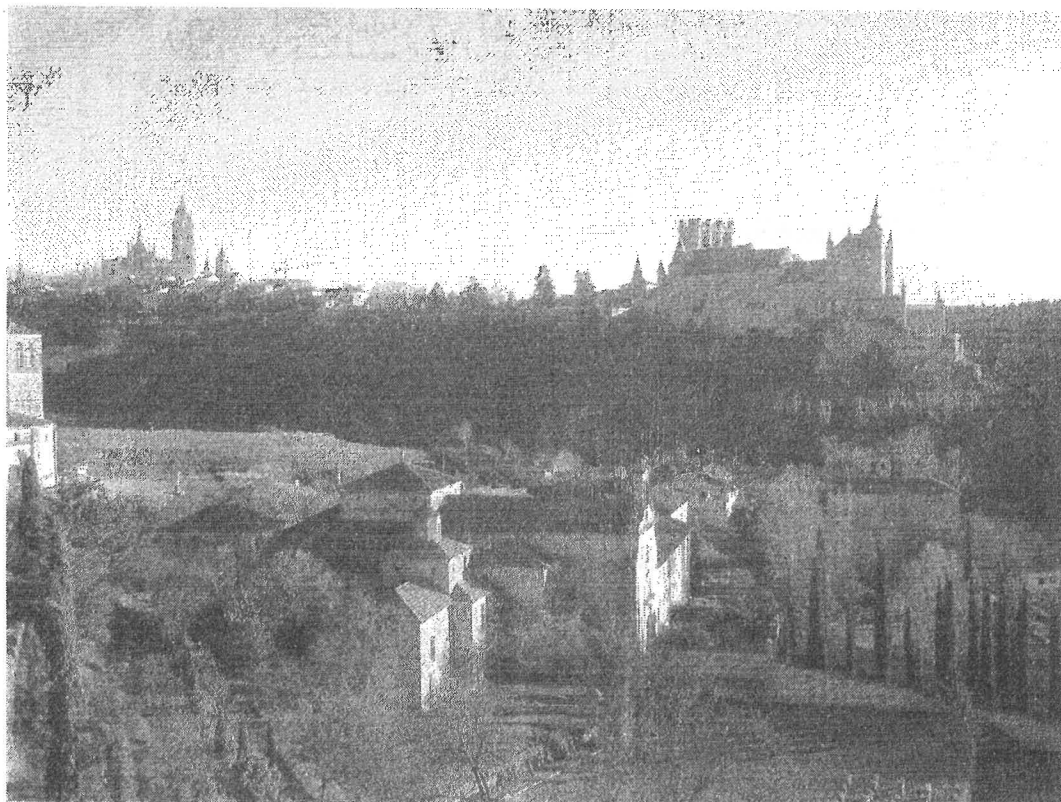
スペイン紀行（2008年）No.9

（セゴヴィア）

スペインの首都、マドリッドの北西95km ぐらいのところにセゴヴィアという町がある。ここにはディズニーの『白雪姫』の城のモデルになったアルカサルがあり、また、町の中心にはゴシック様式のカテドラルが建っている。そして、この町にカルメル修道会の聖人であり、詩人である十字架の聖ヨハネのお墓がある。



16世紀ごろ、この町はカステーリャ地方の中でも大きな町であった。この町に最初の跣足カルメル修道会の修道院を創立したのは、アヴィラの聖テレジアである（1574年3月19日創立）。当時、テレジアはアヴィラのエンカルナシオン修道院の院長であり、そして、その修道院の付司祭として、十字架の聖ヨハネがいた。テレジアはセゴヴィアの修道院創立の際に、十字架の聖ヨハネを同行させている。テレジアがこの修道院を創立する目的の中に、別の意図があった。当時、別の町パストラーナに女子カルメル会の修道院があったが、プリンセス・エボリの修道院入会問題で、この修道院のシスターたちを移す考えをテレジアは持っていた。そのため、セゴヴィアの修道院が創立されるや否や、シスター全員を、このセゴヴィアに移した。十字架の聖ヨハネは、この創立後、アヴィラのエンカルナシオン修道院に1577年12月まで留まるが、その後、再びこのセゴヴィアの男子修道院（1586年7月12日創立）に院長として住むことになる（1588年～1591年）。この時期、跣足カルメル修道会はカルメル修道会から独立して間もないのだが（1581年）、統治の問題から宣教の問題まで、多くの問題を抱えていた。その中で、十字架のヨハネは顧問の一人として、この問題にあたらなければならないが、この時期は、大きな著作を行っていないし、長い旅も行っていない。修道院内の畑仕事やセゴヴィアの共同体の活性化、会の顧問としての仕事、そして多くの人の救いのための仕事を主に行っているし、ここのセゴヴィアの女子カルメル会とはカルメル・ファミリーの一員として接している。しかし、このような仕事の中にも、観想的であり、観想と活動とが調和した生活を送ったようだ。このような生活の中で、主キリストは彼に問いかける。「何を望むか。」ヨハネは答える。「あなたのために苦しむこと、主の愛のために見下げられること。」この主の問いかけは、上の絵のキリストから発せられた。（Fr. 松田浩一 OCD）



(男子跣足カルメル修道院の庭から見たセゴヴィアの風景)



キリスト教との最初の出会い④

キリスト教との最初の出会い

初めて教会に足を踏み入れたのは高校卒業後の友人との軽井沢旅行でした。旅の途中で小さな教会を見つけて、何か目的もなく、ただ呼ばれるようにその建物のなかに入って行きました。

そこで感じた優しい空気が何とも心地よくて、キラキラとした光りに包まれて心が浄化されていくような感覚になったことを覚えています。宗教ということ初めて意識した瞬間でした。

しかし、周りにキリスト教とゆかりのある人は無く、仏教の家庭で育った私はキリスト教に入信できるということを知らずに時間が過ぎました。

その後、看護学生になった私に再びキリスト教にふれる機会が巡ってきました。それは「マザーテレサ」の来日でした。先生から「マザーテレサは栄養失調になっても他人に食物を与えられる」というお話を聞き、たまらなくお会いしたくて授業後に友人たちと南山教会に向かいました。結局たくさんの人々のなかサリーしか見えませんでした。その時のことは今でも鮮烈に覚えています。その頃から、私は他人のために何ができるのだろうと考え始めました。看護師になってからも、その意味を探し続け、医療から社会福祉の道を歩き出すことになりました。マザー自身はご自分の活動を社会福祉のためだとは言われていません。あくまでも福音宣教のための行為とされていますが、当時の私は他人のために自分を与えることが社会福祉だと信じて、キリスト教の教えのもとに社会福祉を学べる大学に進学しました。そこで穏やかな恵まれた環境のもとで学生時代を過ごすことができました。時間が流れ、父の死を迎えて入信を決意しました。

このように、キリスト教との出会いはある日突然やってきました。ひとすじの光りに導かれて進んでいくような感覚です。それは、無意識な心の深い部分に、静かに根をおろして自然に確かなものに変わっていきました。受洗後は、日々の生活のなかでさまざまな主の愛と導きを感じて過ごしています。他人との交わりのなかでいつも主が共にいてくださっています。祈りと共に神様は私たちに必要と思われるものを与えてくださっていることを励みに、これからの信仰生活も歩んでいきたいと思えます。

やる気十分

お告げの姉妹会 S r. 熊田 照子

“エネルギー”と聞くと、私は何となく難しい気がして、そのままの解釈なら“パワー”とか“元気”という風に思ってしまうのですが、それだけではないはず。字句の解釈だけなら簡単にそう言うてしまうでしょうが、さて、これが日常の心と行動に当てはめてみるならば、思うほどは容易ではありません。“やる気”の発元は勿論“心”なのですが、それを“する”時に、心はどう動くのでしょうか？例えば“応接間のお掃除”を頼まれたとして、それは時と場合で大分心の動きが違います。

①それを受けた時の心の状態、(ええっ、今はそれより先に済ませなければならぬ仕事一杯あるのに。ナンで…)とか、②その仕事に対して得手か不得手によっても反応は違ふし、③一寸忙しいけれど、これを引き受けてしてあげたら、多の人が助かるだろうから。などなど……このように、それをすぐやるか、しぶってノロノロやるか などの相違が出てきます。ここには、普通はコトの上手・下手の選択はないはず。 (というのは頼む方も多少、その点は考慮に入れて願うでしょうし、不便を感じているからこそ頼むのですから) 家族にしても他人にしても、私たちは生活の中でいろいろなことをする中で、一つの事柄 (それは必ずしも、立派な大きなことをいうのではなく、茶碗洗いの一つにしても) に対して、ほんとうにやる気十分でしているのでしょうか？やる気というのは、ポパイのようにほうれん草の粉を飲んでモリモリと腕力が上がってくることを言うのではなく、心が積極的にハズんで、人のお役に立つように“やるぞ”とか“間に合わせてやるぞ”とか。とに角、漫然とするのではなく、一つの目標に向かって心からすることです。その目標は、例えば展覧会に出品するか、テストの成績をもっとあげようとか、よい評価が欲しいとか、いろいろあることでしょう。一つをすることに対して、私たちの心と頭は結構、“無意識”の中に働いているものなのです。やる気とは①目的意識を心の奥から把握していること (あまり意識に上がらないかもしれませんが) ②それが得手のものであれば問題はないでしょうが、他の事と重なった時、優先順位をどちらにおくか③そして一番大切なことは、それをするによって人が助かること。④それをするによって神と人が喜ぶだろうこと。これらは普通無意識の中でしてしまうことですが、私たちは一つのことをするにしても、それをするのが、自分のみならず他人も喜び、あるいは他人が助かる。こんな図式の中で、上から見下ろされる神さまはもっと喜ばれる、ということではないのでしょうか。“やる気十分”、そして“やる”という中に、神への愛と、神からの愛が十分に漲っているのだと思います。たとえ、どんなにつたなかつたとしても。

「好きな言葉は何ですか」という質問をよく見聞きします。

座右の銘というほど改まったものではなく、しかし、日々生きていくなかのちょっとしたキーワードというのでしょうか。

信頼とか希望とか愛とか・・・忍耐、勇気、夢、笑顔、等々・・・人によってさまざまなものが挙がることでしょう。

先日、私は「腸（はらわた）」と答えて、その場の空気を「え？」という感じにしてしまいました。

はらわたとはどう考えても美しい響きではありません。聞いた人が優しい顔でうん、うんと背いてくれるような言葉ではないことを、よくわかります。

しかし、私にとっては人生のキーワードと云っていい大切な言葉、好きな言葉なのです。

ここまでのかなり長いといえる人生をふり返り、体の底まで届き体中を動かした言葉を探してみると「腸（はらわた）」という言葉が浮かび上がります。

信頼とか希望とか愛という言葉も、本当に好きであり、キーワードでもあるのですが、今ここで、やはり、はらわたなのです。

思えば腸（はらわた）という言葉は、私たちにとって大変になじみ深い言葉ではないでしょうか。

私たちは、人間といえども生物であり、動物であるためか、はらわただけでなく肉体に関わる言葉を数多くもっています。頭痛の種とか、目から鱗が落ちるとか、愁眉を開く、口角沫を飛ばす、首根っこを押さえる、肩肘張る、胸襟を開く、片腹痛い・・・頭の方から下へと辿ってきましたが、枚挙にいとまあらずです。

ここまでくると次は腸（はらわた）ですが、はらわた個別にみてもたくさんの言葉があるようです。

腸が煮え返る、見え透く・・・性根という意味もあって、腸が腐っているなどと云います。

そういう中で、私は「断腸」という言葉に殊の外こころ惹かれています。

悲しみの極限を言い表す「断腸の思い」という言葉がありますが、これは、もともとは猿のことで、子猿を失って悲しみのあまり死んでしまった母猿の腸

が、細かくちぎれていたという故事に由来するそうです。

感受という事の極限は、やはりこの肉体で表すしかすべがないのかもしれませんが。五臓六腑に染み渡ってこそ、この身の真実であるのでしょうか。

「断腸の思い」は猿ですが、実は私自身も幼い頃にこの類の言葉を深く体験しています。

戦後間もない頃で、食べるものに事欠く時代でした。母が、私たち五人兄弟に、あまりにも乏しい食べものを分け与えながら、「辛くてお尻の穴がむずむず震える」と云ったのを、私は何故か心の底に刻みつけたのです。その時は何と下品な、と思ったかもしれませんが、しかし、私自身大人になり、母親ともなった今、母への痛切な共感に震え、正にはらわたを動かして亡き母を慕わしく思い出します。

猿、母、ときて次にイエズスとは畏れ多いも甚だしいのですが、実にイエズスこそが「腸（はらわた）」の根幹、権化なのです。

イエズスが私のもとへと走りよってくださるとき、実はご自身のはらわたは私のために打ち震えているのです。聖書に、例えば「あわれに思い・・・」と訳されるイエズスが心を動かされる場面の言葉は、「スプランクニゾマイ」という語で、はらわたが動くという意味だそうです。また、十字架上のいわゆる自己空無「ケノーシス」という語は、独語では「エントオイセルング」というようで、それは、はらわたを出す という意味だとききました。

私の魂は、これ等のことをどれほど大切にしていることでしょうか。

イエズスのように、亡き母のように、母猿のように、私もまた腸（はらわた）を震わせるほどに深く生きたいと望みます。

それは、決して大仰でない、或る静かさを備えた慎ましい生き方であると思えています。

いのちの言葉 3月

わたしの食べ物とは、わたしをお遣わしになった方の御心を行い、その業を成し遂げることである。

(ヨハネ 4・34)

ある意味で、キリスト者皆が、このすばらしいイエスの言葉を自分のものとして言うことができるでしょう。そして、このみ言葉を実践するなら、人生という「聖なる旅」において、人は大きく前進するでしょう。

イエスは、サマリアの町にあるヤコブの井戸のそばに座っておられ、そこに来た一人のサマリアの女性と話しておられました。近くの町に買い物に出かけていた弟子たちは、戻ってきて、イエスがこの女性と話しておられるのを見て驚きましたが、その理由は誰も尋ねませんでした。女性が立ち去った後、弟子たちがイエスに食事を勧めると、イエスは彼らの思いを見抜かれ、「わたしにはあなたがたの知らない食べ物がある」と言いながら、ご自分がサマリアの女性と話した理由を説明されました。

しかし、弟子たちには、このイエスの言葉が理解できませんでした。彼らは、実際の食べ物のことを考え、「自分たちがいない間に、誰かが先生に食べ物を持ってきたのだろうか」と言い合いました。するとイエスは、はっきり次のように言われました。

わたしの食べ物とは、わたしをお遣わしになった方の御心を行い、その業を成し遂げることである。

人間が生命を維持するため、日々の食物を必要とすることを、イエスは否定されません。実際、ヨハネ福音書のこの箇

所で、イエスは、人間が生来必要とする「食べ物」を話題にしておられます。ただし、イエスがそうされたのは、もう一つの食物が存在すること、それは実際の食物よりも大切で、ご自分にとって必要不可欠であることを、お示しになるためでした。

イエスは、ご自分をお遣わしになった方の御心を行い、その業を成し遂げるため、天から来られました。イエスの思いと計画は、ご自分のものではなく、御父の思い、計画であり、イエスの語られる言葉、される業は、御父の言葉、業でした。ご自分の思いではなく、ご自分をお遣わしになった方の御心を行う、これがイエスの道です。このように生きることで、イエスの飢えは満たされ、イエスは養われていかれたのです。

御父の御心を完全に受け入れてお応えになることは、十字架の死に至るまで、イエスの人生の特徴となりました。イエスは、御父からゆだねられた業を、十字架上で完全に成就されました。

わたしの食べ物とは、わたしをお遣わしになった方の御心を行い、その業を成し遂げることである。

イエスは、「御父の御心を行うこと」こそ、ご自分の「食べ物」だと考えておられます。御父のお望みを果たし、それに「近づき」、それを「食べ」、それとまったく一つになることで、御父の御心から「いのち」を受け取られるからです。

では、イエスが成就するよう求められた御父の御心、その業とは、何だったのでしょうか。それは、人間に救いをもたららし、死ぬことのない「いのち」をお与えになることでした。

この「いのち」の「芽」と言えるものを、イエスはサマリアの女性と対話しながら、彼女にお伝えになりました。実際、弟子たちはすぐに、この「いのち」が芽を出し、広がっていくのを目にしました。サマリアの女性は、イエスから受け取り、彼女自身が発見した豊かさを、他のサマリア人たちに伝えたからです。「見に来てください。…この方がメシアかもしれません」¹と。

イエスは彼女と話しながら、父なる神のご計画を明らかにしてくださいました。すべての人が、神のいのちという賜物を受け取ることです。これこそ、イエスが少しでも早く成就することを望まれ、後に弟子たちと教会におゆだねになった業でした。

わたしの食べ物とは、わたしをお遣わしになった方の御心を行い、その業を成し遂げることである。

このみ言葉は大変イエスらしいもので、彼の「あり方」、使命と熱意が、まったく特別な形で反映されていますが、私たちもこれを生きることができるでしょうか。

もちろん、できます。キリストからいただいた「いのち」ゆえに、私たちも御父の子供として生き、御父の御心によって自分の生活を養っていく必要があるでしょう。

そのためには、毎瞬間、御父のお望みを果たすことが必要です。他には何もすることがないかのように、完全にみ旨を生きることです。実際、神は、それ以外のことはお望みになりません。

では、神が毎瞬間私たちに望まれるこ

とを、自分の食物としましょう。このような生き方は、私たちを満ちし、平和と喜び、幸せを与えてくれます。「至福」も前もって味わうと言っても、過言ではありません。

こうして私たちも、イエスとともに、日々、御父の業を成し遂げることができるでしょう。

そして、これは復活の現実を生きるための最良の方法と言えるでしょう。

キアラ・ルービック
(2008.3)

★ いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

ある夜、家でとても時間のかかる仕事をしていて、その日のうちに仕上げたいと思いながらなかなか終わらず、あせっていました。そんなとき、もう夜遅かったのですが、一人の友達から電話がかかってきました。大きな苦しみを抱えていて、それまでも何度か話を聞いたり、こちらから電話をしたりしていた人でした。受話器を取ったとき、長くなることが予想され、仕事が終えられなくなるかもしれないと思ってしまいました。しかし、今日終わらなくても仕方がないと思い直し、愛するために、仕事の事を脇に置き、話を聞くことにしました。その人は自分の苦しみを時には涙声で話しました。私は、できるだけ自分の考えを言わず、共感しながら聞くように努めました。相手は自分の思いを話した後、「聞いてくれてありがとう。」と言って切りました。電話の後、また仕事の続きをしましたが、思ったよりはかどりと、予定していた仕事が終わりました。愛するために誰かに時間を与えたときには、その分の時間を神様は与えてくださるということを時々経験します。(長崎市・M)

連絡先

フォコラーレ : 03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ :

<http://www.geocities.jp/focolarejapan/focolaresito>

¹ ヨハネ 4・29

こころを奏でて♪—美しきものの詩

虹

さっき、テーブルの上に置いてあるペットボトルの水が、日の光に当たっていました。そして、ボトルの中の水が、小さな虹を映し出していました。

『わあっ!』って思わず微笑んでしまいました。

旧約聖書に出て来る、ノアの洪水のお話の中で、神さまが、地上に洪水を起こす事はもう二度としない約束として、空と地上を結ぶ虹をかけたのを思い出します。

人間は、完全ではないから約束が守れないこともありますよね。でも神さまの約束は決して破られることはないのですね。

神さまは、この地上に生きる私達一人ひとりと、それぞれ特別の約束をなさっているのかもしれませんが。皆さんのいのちにも、わたしのいのちにも「約束の」虹がかかっていると思います。何かの約束をして、一人ひとりの人間を、この世に送って下さっている神さまを思います。

最期まで、どんな約束なのかを識ることは出来ないかもしれないけれど、その約束を識る鍵は「愛」ではないかと思ったりします。

皆様と御一緒に、お互い「約束の虹」を身にまとって、いのちの旅を続けさせて頂ければ有難いです。

丸山知佳子



馬鹿馬鹿と膝叩きつつ酔ひどれの哭きゐる車中
みな寡黙なり

をさなごとその父並みてテレビ見つ一直線の同
じ眉して

久びさに飾りし雛に雪見すと障子あくれば白梅
咲けり

故クララ、密本延枝さまの歌集「オルゴール」より



あなたの愛に包まれています

主よ、わたしはあなたと共にありました
けれども、怨みを晴らそうとする
わたしの醜い悪しきところが
あなたと言霊を切り離してしまう
文字というものを生み出しました

あなたに、決して食べてはならない
と言われたにもかかわらず
この文字という善悪を知る木の実を
わたしは食べてしまったのです

主よ、わたしは今
あなたから離れてしまいました
あなたの警告通り、死を知るという罪を得
この上なく食欲になってしまいました
おお、主よ、この罪に在るわたしを
どうか今すぐ救ってくださいー

ーおお、主よ、わたしの主よ
約束通りあなたは今、暗闇にいるわたしを
助けに来てくださったのですね

あなたはこの地に大切なひとり子
キリストを送ってくださいました
そして、あなたのひとり子キリストの
十字架上の血という身代金を払われて
死の知覚たる罪に在るわたしを
深淵より買い取ってくださいました

おお、主よ、あなたは今
暗黒の闇に彷徨っていた食欲なわたしを
こうして確かに救ってくださいました
そして、あなたは今ここに、再び
わたしと共にいてくださいます

しかも、死よりの甦りのキリストを
わたしの希望としてくださいました
あなたはわたしの道、真理、命！
今わたしは、あなたの愛に包まれています

柳瀬佳枝

カルメル会の企画案内



内案画金の会小々小々



上野毛靈性センター '08年4月~'09年3月

ご注意! 聖テレジア修道院（黙想）のEメールは故障中ですので、
お申し込みは電話・FAX・ハガキでお願いいたします。

A 黙想企画 ** 聖テレジア修道院（黙想） **

1. 一泊聖書深読（毎回土曜日 夕食～日曜日16時）

5月24日～25日	カルメル会士
7月26日～27日	カルメル会士
11月29日～30日	カルメル会士
09/ 1月24日～25日	カルメル会士

2. 奉獻生活者のための黙想会

A	8月 5日（火）夕食～	8月14日（木）朝	カルメル会士
B	8月18日（月）夕食～	8月27日（水）朝	カルメル会士
C	11月 8日（土）夕食～	11月17日（月）朝	カルメル会士
D	12月26日（金）夕食～	09/1月4日（日）朝	カルメル会士

3. 木曜黙想会 一般黙想（毎回木曜日 10時～16時）

4月17日		カルメル会士
6月 5日	未定	カルメル会士
9月 4日	未定	カルメル会士
11月 6日	未定	カルメル会士
09/ 1月 8日	未定	カルメル会士
3月12日	未定	カルメル会士

4. 金曜黙想会 カルメルの聖人 (毎週金曜日 10時~16時)

5月 9日	未定	カルメル会士
10月10日	未定	カルメル会士
12月12日	未定	カルメル会士
09/ 2月13日	未定	カルメル会士

5. 一般黙想会 (毎回土曜日 夕食~日曜日16時) カルメル会士

6月21日~22日
10月25日~26日
09/ 2月 7日~ 8日

6. 青年黙想会 (男女) カルメル会士 神学生

4月25日(金)~27日(日) 17時受付
10月 4日(土)~ 5日(日) 15時受付

7. 召命黙想会 (男女) カルメル会士

6月28日(土)~29日(日)・・・15時受付
11月22日(土)20時~24日(月)・・・(22日は夕食を済ませてご参加ください)

8. 大祭日のミサに与かるために

【クリスマス】・・・チェックイン午後3時、チェックアウト午前10時
12月24日(水)~25日(木)《講話なし、夕食なし》

9. 特別黙想会 “私は神をみたい” シリーズ 伊従信子NDV

5月16日(金)20時~18日(日)16時(16日は夕食を済ませてご参加ください)
「私は神をみたい」・・・マリア
10月11日(土)20時~13日(月)16時(11日は夕食を済ませてご参加ください)
「私は神をみたい」・・・イエスの渇き

10. 待降節黙想会 カルメル会士

12月5日(金)20時~7日(日)16時(5日は夕食を済ませてご参加ください)

11. 四旬節黙想会 カルメル会士

09/ 3月6日(金)20時~8日(日)16時(5日は夕食を済ませてご参加ください)



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までにお願いします。
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いませんので
なるべくFAX・はがき・~~Eメール~~先でお願いします。(お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院 (黙想)

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

Eメールは工事中のため、しばらくは 電話、ハガキ、FAXでお願いします。

お知らせ

2003年1月より開始した下記の企画は、
九里 彰神父の宇治修道院への移動に伴い、
上野毛霊性センターの企画として続行できなくなったため、
2008年4月をもって終了させていただきます。

B カルメル霊性研究クラス

* アヴィラの聖テレジア『靈魂の城』（最後のクラス）

4月9日（水） 第二の住居

C 念禱の集い

* 先月号で4月25日を予定していましたが、中止いたします。

D 東西霊性研究クラス

* 先月号で4月11日を予定していましたが、中止いたします。



青年黙想会

復活されたキリストと生きる

— パウロとともに —



日時：4月25日(金) 18時 ~ 27日(日) 16時

場所：聖テレジア修道院(黙想)
(東急大井町線 上野毛駅下車)

対象：高校生以上の青年男女(35歳まで)

定員：20名

指導：九里彰師・神学生

費用：一般 10,000円 学生 8,000円

参加をご希望の方は、ハガキ・
FAX・E-mailのいずれかで
住所・氏名・年齢・電話番号を
ご記入の上 4/18(金)までに
下記宛お申込み下さい。(必着)

(お問い合わせ 及び お申し込み先)

〒158-0093 世田谷区上野毛2-14-25 カルメル会上野毛聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355 FAX 03-3704-1764 E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp

※黙想会等のご案内は、カルメル霊性センターのホームページでご覧いただけます。

<http://www4.ocn.ne.jp/~carmel/> (C.Y.C. 加州・1-ス・クラブのご案内もございます。)

特別黙想会 《私は神をみたい》

—ルルドご出現 150 周年にあたって—

「マリアの年」のマリアの月、五月に静かな祈りの時を・・・

母マリア わたしたちの希望

2008年5月16日（金曜日）20時—18日（日曜日）16時

指導：伊従信子 師（ノートルダム・ド・ヴィ）

場所：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

フランスのルルドの貧しい少女ベルナデッタに2月11日から7月16日カルメル山の聖母の祝日まで、十八回にわたってマリアは出現されました。そしてその名を「原罪なく宿られたもの」とあかされました。教会が『無原罪のマリア』を宣言してから四年後のことでした。以来聖母が望まれたように教会が建設され、人々は祈るために全世界から集まってきました—150年間湧き続ける水に体と心の癒しを求め、母マリアに希望を託して。このご出現を記念して教皇様は今年を「マリアの年」とされました

現代社会の闇の中で、母マリアに常に希望をおくことができますように。



わたしが あなたのもとに来たのは

聖母よ わたしは あなたの子供であり

あなたがそこに居られる

ただこの事実をかみしめ

あなたとともに居り

何も言わずに あなたを眺めます

ポール・クローデル

持参するもの：新約聖書（黙想の家にも備え付けあります） 筆記用具、パジャマ

参加費： ¥12000

158-0093

東京都世田谷区上野毛2-14-25

カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想）

お問合せ・お申込：

TEL.03-5706-7355

FAX.03-3704-1764

‘08年4月～12月まで 黙想会案内 (宇治カルメル会)

宇治聖テレジア修道院 (黙想)

1. 聖書深読

一泊二日 (午後5時～午後4時)

5月17日 (土)～18日 (日) 渡辺幹夫神父

7月 5日 (土)～ 6日 (日) 新井延和神父

9月20日 (土)～21日 (日) 渡辺幹夫神父

11月 8日 (土)～ 9日 (日) 中川博道神父

1日 (午前10時から午後4時)

4月12日 (土) 渡辺幹夫神父

6月21日 (土) 新井延和神父

10月 4日 (土) 畠 基幸神父

12月13日 (土) 新井延和神父

2. 水曜黙想 (午前10時～午後4時)

4月 2日 キリストの復活 新井延和神父

5月28日 聖霊の賜物 長岡幸一神父

6月11日 ご聖体 ベルナルド神父

7月23日 カルメルの祈り 新井延和神父

9月10日 神との親しさ 中川博道神父

10月 8日 アヴィラの聖テレジア sr.パウリーナ

11月19日 三位一体のエリザベット ベルナルド神父

12月17日 十字架の聖ヨハネ 渡辺幹夫神父

3. 待降節黙想 (午後5時～午後4時)

12月6日 (土)～7日 (日) 新井延和神父

4. 聖テレーズの黙想 (午後5時～午後4時)

9月30日 (火)～10月1日 (水) 伊従信子 (NDV)

5. 一般黙想 (修道者も可能) 午後5時～午前9時

4月29日 (火)～5月6日 (火) 渡辺幹夫神父

6. 奉獻生活者のための黙想（午後5時～午前9時）

8月 2日（土）～11日（月）	渡辺幹夫神父
8月18日（月）～27日（水）	中川博道神父
10月18日（土）～27日（月）	渡辺幹夫神父
12月27日（土）～1月5日（月）	新井延和神父

7. 青年のための黙想会・男女（午前10時～午後5時）

11月2日（日） カルメル宣教修道女会、渡辺幹夫神父

.....

その他皆様が企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

* 申し込み方法

電話でも受け付けておりますが、できるだけFAXあるいはハガキでお名前と連絡先をご記入の上お申し込みください。なお、お電話でお申し込みの場合、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受付が休みになっている時はすぐに返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

宇治カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
TEL 0774-32-7016
FAX 0774-32-7457

「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

～都会の中の一泊静修～（2008）

この会は、現代の忙しい社会の中にあつて、また都会の中にあつて、神様との静かなひとときを過ごすために企画しました。イエス様は、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたかたと共にいる。」(マタイ28:20)とされました。

ともにいるイエス様とのひとときを、都会の真ん中で過ごしてみたいかたでしょうか。

今年は、年間共通テーマとして、「祈りを生きる～主よ、私たちに祈ることを教えてください～」としました。

このテーマを通して、魂の呼吸であるといわれる祈りを、日々の神様との出会いの中で、主のみ前に自分をおき、静かに主のみ声に耳を傾け、主と語り、主を生きる喜び、恵み、愛を思い巡らしながら、神様と交わりをより深めていく事ができるならと願っています。

第1回	1月14日(月) *祝	日常の祈りの心、形、方法	中川博道神父(カルメル会本部)
第2回	2月16日(土)	イエスは祈られた	ベルナルド神父(宇治修道院)
第3回	3月15日(土)	苦しみの時の祈り	新井延和神父(宇治修道院)
第4回	4月12日(土)	賛美と感謝の祈り～ミサ～	今泉健神父(上野毛修道院)
第5回	5月24日(土)	ロザリオの祈り	渡辺幹夫神父(宇治修道院)
第6回	6月14日(土)	主の祈り	新井延和神父(宇治修道院)
第7回	7月21日(月) *祝	聖エリアの祈り	中川博道神父(カルメル会本部)
第8回	9月27日(土)	幼いイエスの聖テレジアと祈り	未定
第9回	10月13日(月) *祝	アヴィラの聖テレジアと祈り	Sr.パウリーナ(宣教カルメル修道女会)
第10回	11月22日(土)	十字架の聖ヨハネと祈り	九里彰神父(上野毛修道院)

* 時間 AM10:00～PM4:00

* 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) *聖テレジア幼稚園隣接

* 駐車場は利用できません。

* 費用 1,000円

* 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当

* 定員 約20名

* プログラム

- 10:00～ 祈り
- 10:40～ 講話【1】
- 12:00～12:45 昼食
- 12:50～ 赦しの秘跡または短い面接
- 13:30～ 講話【2】
- 14:45～ ミサ
- 15:30～ 茶話会
- 16:00～ 終了

☆ 空いている時間に、赦しの秘跡または短い面接を受けることができます。

申し込みは、下記の住所へVカキかFAXで、氏名・住所・TELを記載のうえ、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆ 名古屋カルメル霊性センター—日静修係

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17カルメル会日比野修道院 FAX 052-671-1825

または、〒465-0058名古屋市名東区貴船3-2115 小林厚 TEL/FAX 052-701-3685

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

NEW企画!

聖書深読会ご案内 2008 年度

日曜日の福音を、読み、味わい、分かち合い、解読で学んで
福音を心に刻みます。どなたでも、自由にご参加ください。

1. 5月31日（土） 畠 基幸神父
2. 7月19日（土） 新井延和神父
3. 9月13日（土） 新井延和神父

場所；唐崎黙想の家（ノートルダム教育修道女会）

費用；1,500円（昼食代含む）

時間；午前10:00～午後4:00

住所；〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

TEL 077-579-7560

交通；JR京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車

琵琶湖の方へ徒歩 約13分

申し込み・問い合わせ；TEL 075-781-6438

FAX 075-781-8935 Sr.福島まで

各回、お申し込みは前日までに

電話、ファックス、または葉書にてお願いします。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 17,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 15,950円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

2 ミニ深読

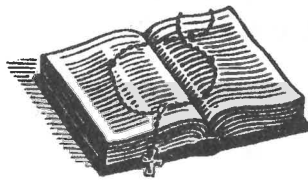
グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

カルメル会出版物のご案内

雑誌「カルメル」No. 327 (2007年冬号)「今日の靈性」

- * 聖霊の光のもとに 一教父たちの教えと生き方(8) …高橋正行
- * 【靈的講話】存在の根底に立ち返る(続) …中川博道
- * 十字架の聖ヨハネ講話 (9) …フェデリコ・ルイス
アヴィラの聖テレジアのとらえた「謙遜」の意味(7) …九里 彰
愛で生きる(7) …ペトロ・アロイジオ
エリザベットの「魂のこだま」、ギット(4) 一妹への最後のことば …伊従信子
カルメルの馨り(11) 花咲くぶどうの樹 ～在俗者会と男子会員～ …大瀬高司
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師(19)
一日々の生活で信仰を生きる …伊従信子
- * リジューの聖テレーズとペトロ岐部
一本質を見定めることの大切さ …谷口正子
愛の断章(6) …奥村一郎

雑誌「カルメル」No. 328 (2008年春号)「今日の靈性」

- * 聖霊の光のもとに 一教父たちの教えと生き方(9) …高橋正行
- * 「イエスに香油を注いだ女」マルコ 14:3～9 …九里 彰
- * 司祭職、それはわたしにとってすべてである …J・マッカーフリー
- * 十字架の聖ヨハネ講話 (10) …フェデリコ・ルイス
愛で生きる(8) …ペトロ・アロイジオ
エリザベットの「魂のこだま」、ギット(5) 一試練の中で …伊従信子
カルメルの馨り(12) 馨るカルメルの花
～今を生きる者たちへ～ …大瀬高司
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師(20) 一平凡な生活 …伊従信子
- * 1500キロを歩く …森 みさ
愛の断章(7) …奥村一郎

※ 雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬号+特集号、送料込み)として、3000円を下記へお振込みください。

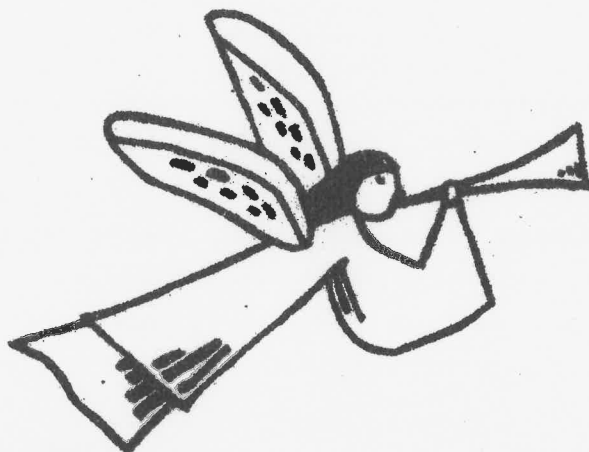
郵便振替: 00190-4-195457 跣足カルメル修道会

(お問い合わせは、事務担当竹田まで。TEL(03)5706-8356)

待望の再販

『自叙伝』(サンパウロ社)、『創立史』『完徳の道』『靈魂の城』(ドン・ボスコ社)

諸所の企画案内



CWC 企画

心のいほり

真命山靈性交流センター

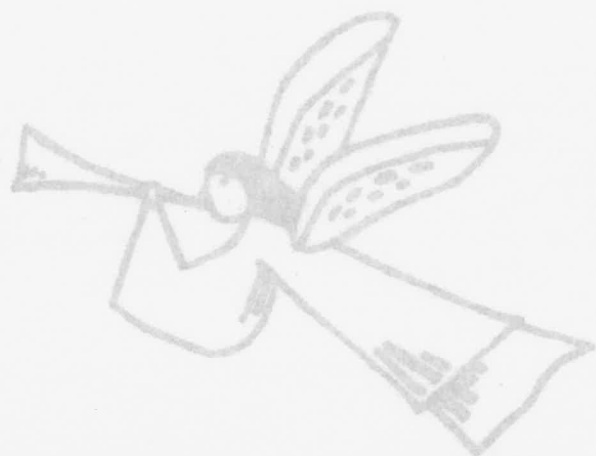
リーゼンフーバー神父キリスト教講座

コングレガシオン・ド・ノートルダム

ノートルダム教育修道女会

ノートルダム・ド・ヴィ

内案画金の両誌



画金 CWC

の社/Jの心

一々に才旅交掛豊山命真

画誌誌一はし中父幹一ハ一てくサ一し

△をレイ一し・ホに本はたレてに

会文画誌育誌△をレイ一し

レて・ホ△をレイ一し

諸所の企画案内

【CWC 講話会】

現在は、「聖書深読入門」を行なっています。

講師：九里 彰神父（カルメル会）

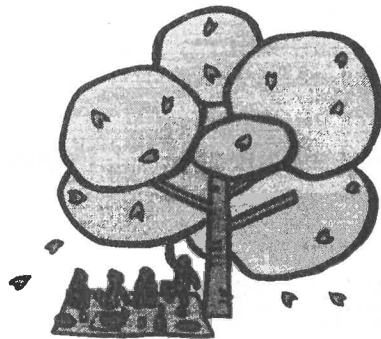
日時：原則として第二火曜日（以下のとおりです）

場所：真生会館4階第8会議室 時間：午前10時30分～12時

対象：キリスト教に関心のある方はどなたでも。

連絡先：神藤（CWCスタッフ）TEL（03）3642-5629

この企画は、九里 彰神父の
上野毛修道院から宇治修道院の移動によって、
2008年4月8日（火）をもって
最後といたします。



方法

1. まず講師の選んだ聖書箇所を皆で一節ごとに「輪読」。
2. その後、沈黙の内に何度も読み、み言葉を味わう「素読」。
3. 「素読」で受け取ったものを、一節ごと皆で分かち合う「合読」。
他者の発言に対し、一切批評はしない。自分のことのみ発言する。
（無理に発言する必要なし。何も発言しなくてもOK。）
4. 「合読」を受けて、講師がその日の箇所について解説する「解説」。

内観黙想の予定表

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意下さい。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み6万円です。

◎ファックス・手紙でセンターに問い合わせして下さい。電話では取次いでおりません。

申し込みは会場予約準備がありますので、10日前までに完了をお願いします。

◎〒572-0001大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観瞑想センター」

藤原神父 FAX 072・802・5026

予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

★2008年度★

了	P1	08・01・11 (金)	2時から	01・17 (木)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
了	K1	08・01・27 (日)	2時から	02・02 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
了	Y1	08・02・10 (日)	2時から	02・16 (土)	2時まで	神戸・須磨・ヨハネ
了	P2	08・03・10 (月)	2時から	03・16 (日)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
	K2	08・04・13 (日)	2時から	04・19 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
	M1	08・05・25 (日)	2時から	05・31 (土)	2時まで	盛岡・白百合
	K3	08・06・01 (日)	2時から	06・07 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
	N1	08・06・24 (土)	2時から	06・30 (月)	2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム
	Y2	08・07・22 (火)	2時から	07・28 (月)	2時まで	神戸・須磨・ヨハネ
	H1	08・08・18 (月)	2時から	08・24 (日)	2時まで	姫路仁豊野・マリア
	P3	08・09・13 (土)	2時から	09・19 (金)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
	K4	08・09・28 (日)	2時から	10・04 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
	Y3	08・10・07 (火)	2時から	10・13 (月)	2時まで	神戸・須磨・ヨハネ
	N2	08・11・04 (火)	2時から	11・10 (月)	2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム
	P4	08・11・30 (日)	2時から	12・06 (土)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
	K5	08・12・09 (火)	2時から	12・15 (月)	2時まで	東京・小金井・聖霊会

ミニ内観のご案内

★滋賀・唐崎・ノートルダム折りの家で

二泊内観。参加費は2万円

- 了 ■2008年3月25日(火)午後1時から
27日(木)午後4時まで
- 2008年9月23日(火)午後1時から
25日(木)午後4時まで

★宝塚売布女子ご受難会修道院にて

一泊内観。参加費は1万円

- 2008年4月26日(土)午後2時から
27日(日)午後4時まで

★内観経験者の集い(関東)

- 2008年4月20日(日)・10月5日(日)
- 聖母訪問会・三浦修道院にて
- 連絡:高階 dhk-ichiro@y7.dion.ne.jp

★ブラリと訪れ、静かな時間・内観したい人に

- 長野県下伊那郡大鹿村 小倉家
- 電話0265・39・2778

●問い合わせ

- 唐崎修道院シスター桂川・安井
電話 077-579-7580
ファックス 077-579-3804
- 内観瞑想センター藤原
ファックス 072-802-5026



「聖霊による祈り」

祈りの集い（午前 10 時～午後 2 : 30 時）

- 了
- 1月 10日 イエスは神の霊が鳩のように御自分の上に降
って来るのを御覧になった』
イエス様の洗礼、その弟子であるわたしたち
の洗礼の時受ける聖霊
- 了
- 2月 14日 『初めに...神の霊が水の面を動いていた』：創
造主である聖霊
- 3月 休み
- 4月 10日 『預言者を通して語られた聖霊』
- 5月 8日 使徒の上を下って来た聖霊
- 6月 12日 『賜物である聖霊を受けなさい』：堅信の秘蹟
で受ける聖霊
- 7月 10日 『エピクレシス』：ミサでの聖霊の働き
- 8月 休み
- 9月 11日 聖霊による生活：ローマ5、9-39
- 10月 9日 『聖霊の実り』
- 11月 13日 聖霊による祈り
- 12月 11日 霊と花嫁とが言う：『主よ、来てください』

指導者：

フランコ・ソットコルノラ神父（真命山院長）

申し込み先

〒 865-0133

熊本県玉名郡和水町蜻浦 1391-7

真命山諸宗教対話・靈性交流センター

☎ 0968-85-3100; Fax 0968-85-3186

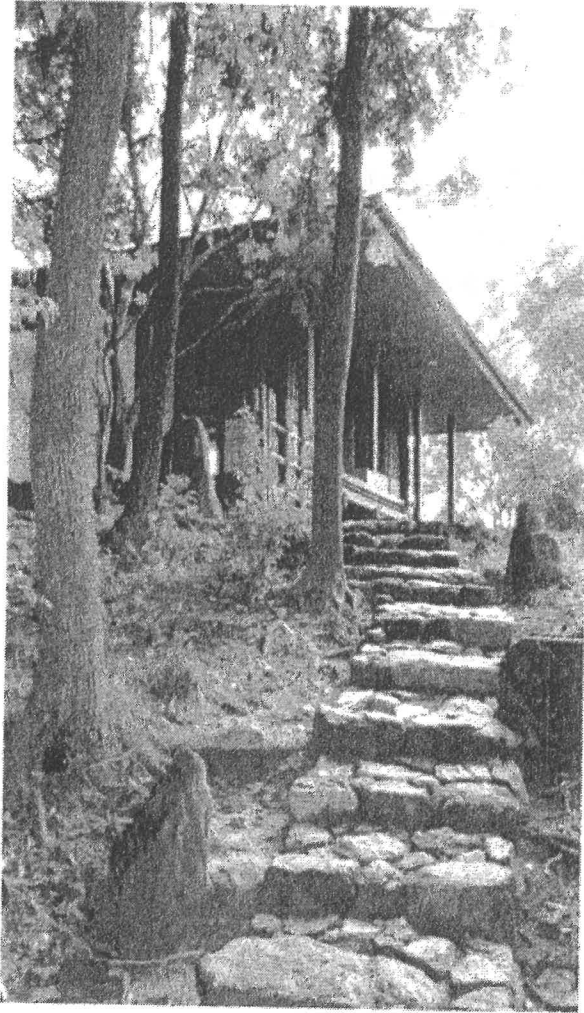
e-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

※個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎
いたします。（要予約）

真命山

真命山の靈性

諸宗教対話・靈性交流センター



自然

神はすべてを作り
人の手に委ねられた

陽の昇るところから
陽の沈むところまで

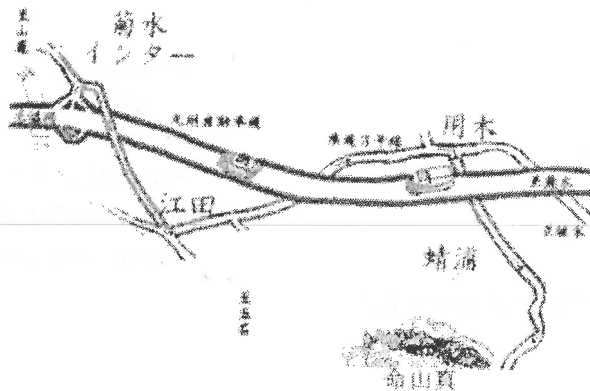
祈り

静けさ

沈黙の中に神の
言葉を聞こう

信仰体験を
分かち

交わり



リーゼンフーバー神父 講座・集い 案内

2008～2009年

- キリスト教入門講座 金曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルベホール
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。
- キリスト教理解講座 毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルベホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。
信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探究します。
- 聖書研究会 木曜日 12時45分～13時25分 上智大学7号館316号研究室
学生のどなたでも。新約聖書を1章ずつ読んで勉強します。

坐禅会

- 月曜日 17時20分～20時10分
 - 木曜日 18時～20時30分
- 上智大学内 Kultourハイム1階左の部屋。祝日を除く。
3回坐り、間に講話があります。
どなたでもどうぞ。初心者も歓迎です。遅刻、不定期の参加も可。

接心

- 4月28日(月)20時30分～5月5日(月)13時
6月20日(金)20時30分～22日(日)13時
8月9日(土)20時30分～16日(土)7時30分
10月29日(水)20時30分～11月3日(月)13時
2009年2月21日(土)8時30分～22日(日)15時30分 上石神井。5400円程度。
- 5月31日(土)13時～6月1日(日)16時
8月1日(金)17時30分～7日(木)13時 宝塚市

ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内 Kultourハイム1階右小聖堂
どなたでも。(4月30日、8月全休、祝日は休み)

黙想

- 「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時 聖イグナチオ教会マリア聖堂
どなたでも。但し祝日、8月12日は休み。8月26日は上智大学内 Kultourハイム聖堂。
12月25日(木)はクリスマスの黙想(予定)。
- 水曜日 18時～18時30分 上智大学内 Kultourハイム1階右小聖堂
どなたでも。(4月30日、8月全休、祝日は休み)
- 通う霊操 8月23日(土)～8月31日(日) 18時～20時45分 上智大学内 Kultourハイム聖堂

祈りの集い

- 下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内 S.J.ハウス第5会議室
講話、黙想、ミサがあります。
4月12日、5月10日、6月7日、7月12日、8月9日、9月6日、10月11日、11月8日、12月13日、
2009年1月10日、2月7日、3月14日
- ロザリオの祈り 同日16時10分～16時50分 上智大学内 Kultourハイム1階右小聖堂

黙想会

6月14日(土)10時～15日(日)15時、9月13日(土)10時～15日(月)14時、12月6日(土)10時～7日(日)15時(東村山)、2009年1月31日(土)10時～2月1日(日)15時、上石神井。1泊5400-5600円程度。

アガベ会

下記の日、説明会(13時30分)と集い、ミサ(14時～18時) 上智大学内 S.J.ハウス第5会議室
4月19日(土)、6月28日(土)、10月12日(日)、2009年1月25日(日)

クリスマス会

12月20日(土) 16時30分 聖イグナチオ教会マリア聖堂、18時 岐部ホール。要申し込み。

クリスマスのミサ

12月23日(火) 14時～ 上智大学内 Kultourハイム聖堂

問い合わせ・連絡先

クラウス・リーゼンフーバー神父(上智大学文学部哲学科教授)
〒102-8571 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J.ハウス
電話 03-3238-5124(直通)、5111(伝言)、FAX 03-3238-5056
http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/index.html



リーゼンフーバー神父キリスト教入門講座 2008年～2009年

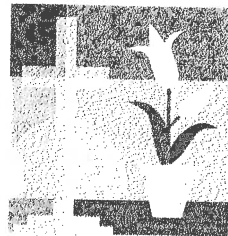
日 時 毎週金曜日 18時45分～20時30分

場 所 聖イグナチオ教会（四谷駅前）信徒会館3階アルペホール

電 話 03-3263-4584

各回のテーマ

- 4/11 信仰の道—人生の意味を問う
- 4/18 聖書の間像—人間の現状と使命
- 4/25 旧約聖書の神体験—聞くことと見ること
- 5/9 神認識の道—理性と経験を通して
- 5/16 創造された世界—人間存在の根拠と自然の意味
- 5/23 歴史と信仰—神と人との出会い
- 5/30 新約聖書の神理解—主なる父



リーゼンフーバー神父キリスト教理解講座 2008年～2009年

日 時 第1・3・5火曜日 18時45分～20時30分

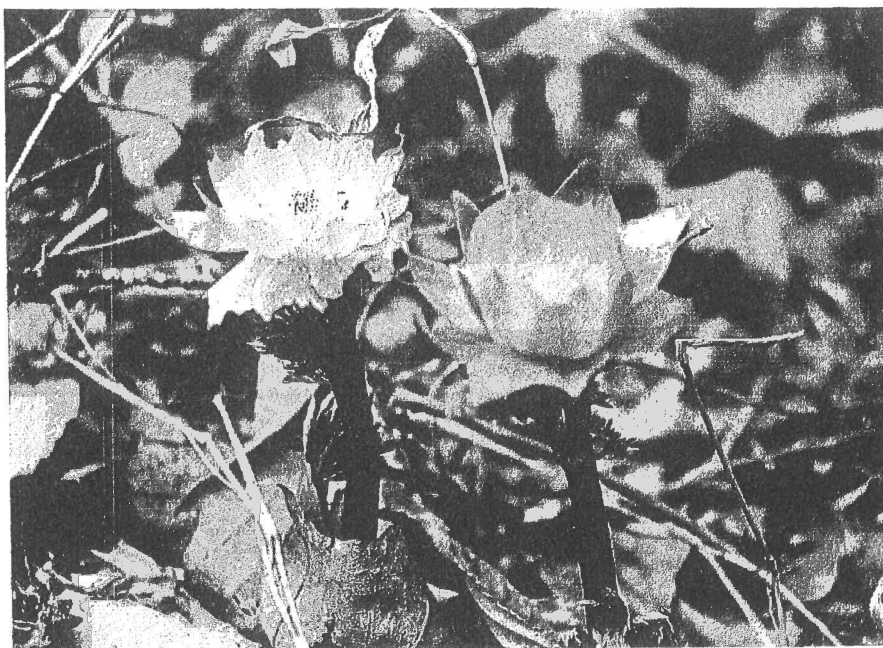
場 所 聖イグナチオ教会（四谷駅前）信徒会館3階アルペホール

電 話 03-3263-4584

各回のテーマ

- 4/15 [基盤] 存在の超越と内在—神理解への道
- 5/20 [人間] 神の似姿—理性と信仰
- 6/3 自由意志と時間—歴史における意識
- 6/14～15 黙想会
- 6/17 [神] 無限への問い—理性による神理解
- 7/1 世界の根源—神存在の確認

祈りの集いのご案内



1 日黙想会

— イエスのゆるし —

講 話：河合恒男神父様（サレジオ会）

日 時：5月25日（日）10：00～16：30 受付 9：30～

対 象：男女信徒・求道者（年齢問わず）

参加費：2000円（お弁当代含む）

申込み 5月18日（日）まで

問い合わせ・申し込み

〒182-0034 東京都調布市下石原3-55-1

コングレガシオン・ド・ノートルダム修道院(担当：Sr.山本・Sr.峰・Sr.池田)

京王線調布駅下車徒歩13分(鶴川街道沿いマルガリタ幼稚園隣)

TEL：0424-82-2012 FAX：0424-82-2163

E-mail：prayer3551cnd@hotmail.com

URL：www.cnd-m.com

ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院

- ◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel : 077-579-7580
Fax : 077-579-3804
E-メール : karainorind92@mbe.nifty.com

- ◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

- 了 ① 2007年12月27日(木)～2008年1月4日(金)
② 2008年7月22日(火)～7月30日(水)
③ 8月16日(土)～8月24日(日)
④ 9月1日(月)～9月9日(火)
⑤ 10月18日(土)～10月26日(日)

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

B. 祈りの体験：週末3日間（金曜日の夕食～日曜日の昼食）

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- 了 ⑥ 2008年1月18日(金)～1月20日(日)
了 ⑦ 2月22日(金)～2月24日(日)
⑧ 4月11日(金)～4月13日(日)
⑨ 5月9日(金)～5月11日(日)
⑩ 6月27日(金)～6月29日(日)
⑪ 9月5日(金)～9月7日(日)
⑫ 10月3日(金)～10月5日(日)
⑬ 10月10日(金)～10月12日(日)
⑭ 10月24日(金)～10月26日(日)
⑮ 11月7日(金)～11月9日(日)

他の黙想会が行われている場合があります。

C. 自己発見から神へ I 【講話と実習】

了 ⑯ 2008年2月22日(金)～2月29日(金)

⑰ 10月1日(水)～10月8日(水)

この期間、個人黙想をなさりたい方は、ご相談ください。

D. 上記の日程以外の日に、個人で黙想をなさりたい方は、
問い合わせてください。

- ◎ 対 象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。
- ◎ 霊的同伴者： トニー・ブロードニヤック (リノール宣教師) 安井 昌子 (ノートルダム教育修道女)
菊池 陽子 (ノートルダム教育修道女) 松本 佳子 (ノートルダム教育修道女)
- ◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」安井昌子 へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 但し、それ以前に
満室になった場合は、次の機会にお願いすることがあります。

- ◎ その他： 受付(チェック・イン)は、いずれの場合も、初日の15時から16時45分まで。
問い合わせは、電話 または、Eメールを ご利用ください。

いのちの泉へ

すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を
養うための講話と沈黙の祈りで構成された集いです。

カルメルの靈性を、より深めたい方のグループと、
若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

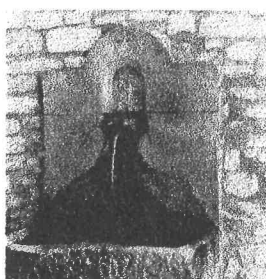
2008年4月19日(土)

講話 伊従信子・片山はるひ

* 次回の予定 2008年5月10日(土) *

午後2時より 講話・祈り・分かち合い
午後5時半 主日のミサ(参加自由です)

参加費 200円



お申し込み・問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail jndv-jp@r2.dion.ne.jp

カルメル会の靈性を受け継ぐ ノートルダム・ド・ヴィ (いのちの聖母会) は、
現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、
祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。



奥村一郎 Okumura Ichiro・カルメル会司祭

1923年生まれ。旧制高校時代より『正法眼蔵』に親しみ、中川宋淵老師に師事する。東京大学法学部、同大学文学部卒業後、カルメル会入会のため渡仏。帰国後は京都ノートルダム女子大学教授、聖母女学院短期大学学長、教皇庁諸宗教対話評議会顧問などを歴任。

祈りと思案の日々はときに私を新たな地平へと導く。カトリック修道者となつてなお続く禅との関わりや宗教対話の積み重ねが、やがて「関係の神学」として結実したことはその一つである。自己形成や修徳主義を基軸とする「個の靈性」の行き詰まりの中で、福音の原点である相互愛に基づき「関係の靈性」

は日本文化とキリスト教など、その後の私の問題関心を深めてくれた。——著者による「刊行にあたって」より

深い信仰と豊かな靈性、
そして透徹した知性が織り成す
奥村神学の全貌。

奥村一郎選集

Okumura Ichiro

全9巻

2007年3月刊行開始

オリエンズ宗教研究所

定価各2,100円

(本体2,000円)

四六判・上製・平均240頁

奥村一郎選集 全9巻の構成

- 第1巻 慈悲と隣人愛
(解説)西村恵信
- 第2巻 多文化に生きる宗教
(解説)ヤン・ヴァン・レプラフト
- 第3巻 日本の神学を求めて
(解説)小野寺功
- 第4巻 日本語とキリスト教
(解説)阿部伸麻呂
- 第5巻 現代人と宗教
(解説)鶴岡賀雄
- 第6巻 永遠のいのち
(解説)八木誠一
- 第7巻 カルメルの靈性
(解説)高園泰子
- 第8巻 神に向かう〈祈り〉
(解説)高橋重幸
- 第9巻 奉獻の道
(解説)宮本久雄

選集既刊本

第一卷 慈悲と隣人愛

《カトリックから禅へ/小事と瑣事/
禅とキリスト教における靈的修行》

解説：西村恵信

第三卷 日本の神学を求めて

《日本の神学/相互愛/「信じる」と
「愛する」/新しい掟》

解説：小野寺 功

奥村一郎選集

7

カルメルの靈性

第四卷 日本語とキリスト教

《日本人の心とその精神構造/「ことば」から「みことば」へ/
聖書と翻訳》 解説：阿部仲麻呂

第六卷 永遠の命

《嬰兒回帰/人間の栄光と悲惨/信仰と悲しみ/十字架の秘義/
人間と世界と神》 解説：八木誠一

第七卷 カルメルの靈性

《アビラのテレジア/十字架のヨハネ/小さきテレーズと東洋的
靈性》 解説：高園泰子

—4月末配本予定(以下)—

第五卷 現代人と宗教 解説：鶴岡賀雄

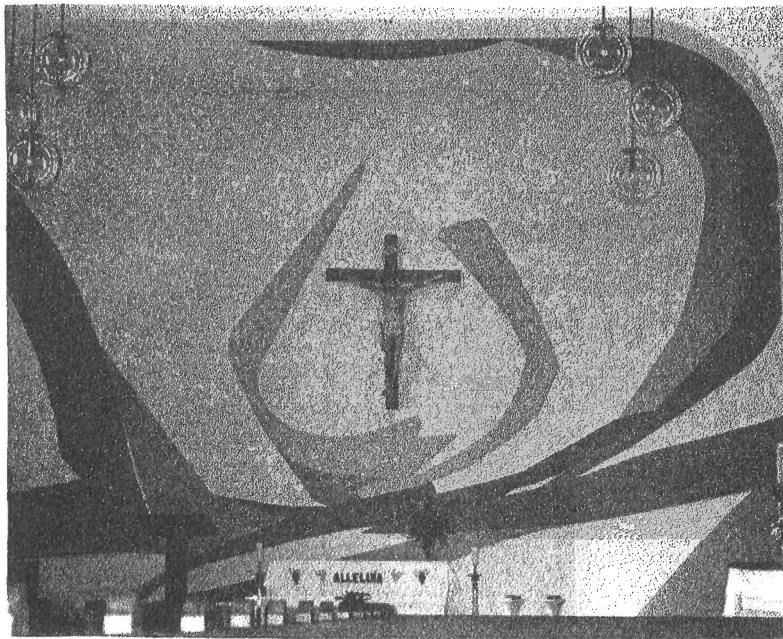
《現代人とキリスト教/偶像の喪失/退屈/全人教育と真人教育》

新刊紹介

谷口正子著

仏教とキリスト教の中の『人間』

『歎異抄』・宮澤賢治・石牟礼道子ほか



(ポール藤野の聖堂壁画)

- * 宗教と詩と世界経験が「人間」へと収斂していった。
現代世界における人類破壊の流れに抗しようとする著者谷口正子さんの切なる祈りがこめられている。
(京都大学名誉教授) 上田閑照
- * 仏教かキリスト教かの短絡的な二者択一でない普遍的な地平
を「人間」という事実から探ろうとする、真摯な魂の軌跡。第二ヴァチカン公会議の精神とも符合する。
(跣足カルメル会上野毛修道院院長) 九里 彰

国文社 定価 (本体 2400 円 + 税)

新刊紹介

イエスの渇き

小さきテレーズとマザー・テレサ

著者 ジャック・ゴティエ：カナダ人。詩人、神学者。オタワの聖パウロ大学教授

訳者 伊従 信子

頁数 180ページ

価格 1300円 (税込み価格 1365円)

女子パウロ会出版

● 内容紹介

テレーズとマザー・テレサを強く結んでいるものは、人々を愛したいとの熱烈な望み
イエスの渇きを潤すこと。

深く優しい主の愛にすべてをゆだねるという「小さき道」を歩くこと、
孤独で見捨てられている最も貧しい人に愛をこめて仕えることで、
二人はそれぞれ、イエスの愛に応える。

世界中の人に敬愛され続ける二人の愛の道が、今、明らかに示された黙想書。



リジューの聖テレーズ布教事業の保護者宣言80周年

記念御絵



* ご絵は、カルメル会上野毛修道院で取り扱っています。

- A. 6cm×10.5cm (¥30)
- B. ハガキ (¥100)
- C. 25.5cm×30.5cm (¥300)

上記の3種類のサイズがあります。ご希望の方は、FAXにてサイズ別の枚数をご記入の上、お申込み下さい。

FAX: 03-3704-1764

投稿募集

テーマ：「キリスト教との最初の出会い」

仏教国である日本において、読者の皆さまがどのようにしてキリスト教に出会ったか、その最初のきっかけ、エピソードなどをB5で2枚前後に簡単にまとめ、送ってください。求道者の方々にも興味深いことと思われま

》投稿規程《

- * 締切り：原則的に毎月10まで
- * 原稿サイズ：B5 左右の余白20mm
- * 原稿はできる限り、ワープロかパソコンでお願いします。
- * E-mailでの投稿は、添付ファイルで、tokyo@carmel-monastery.jp宛にお願いいたします。
- * 「心の泉」のコーナーについては小題をつけて。
- * 「諸所の企画」のコーナーについては、
 - ① 主催するグループ名もしくは個人名を明記。
 - ② 活動内容。例えば、「黙想会」、「祈りの集い」等。
 - ③ 月間、あるいは年間の具体的計画。
 - ④ 連絡先等。
- * 寄稿連絡は、^{くのり}九里 彰神父宛にお願いいたします。i住所が変わります！
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12 カルメル会修道院
Tel (0774) 32-7456 Fax (0774) 32-7457

「カルメル霊性センター」のホームページ

YAHOOで「カルメル霊性センター」を探索してください！！

ホームページのアドレスは以下の通りです。

<http://www4.ocn.ne.jp/~carmel>

『靈性センターニュース』ご希望の方

下記まで、郵送ご希望の月数分×220円を現金で送ってください。(これは郵送料です。)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25 カルメル会上野毛修道院
「靈性センターニュース事務局」

「上野毛靈性センター」への献金のお願い

なお「靈性センターニュース」は現在、上野毛靈性センターで編集、印刷、製本、発送等の仕事しております。ご希望の方へ無料で配付しておりますが、コピー代、紙代、印刷代等、諸経費はすべてカルメル修道会が負担しております。読者のみなさまのご理解とご協力をお願いいたします。

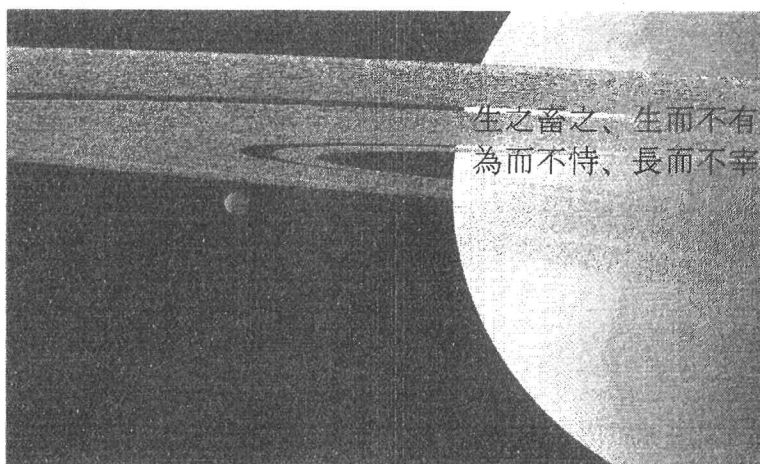
* 献金される方は、下記の口座へお振込みください。

郵便番号口座：00110-4-297250

加入者名：カルメル靈性センターニュース

通信欄に「靈性センターニュースへの献金」とご記入ください。

* なお上野毛教会聖堂の祭壇左側の献金口や、信徒会館の「カルメル図書コーナー」の献金口に、直接、献金して下さっても結構です。献金袋は用意されております。



生之畜之、生而不有、
為而不恃、長而不宰

編集後記

人事異動のため、東京の上野毛修道院から京都の宇治修道院（修練院）へ移ることになりました。修練を終えてから、十七年ぶりに宇治の修道院にもどります。

「従順こそ、最高の完徳にもっともすみやかにいたる道である」とアヴィラの聖テレジアは言っていますので、私も多少、完徳の道を進むことができそうです。

引き続き、私が「靈性センターニュース」の編集長を担当いたしますので、皆さまのご理解、ご協力、そしてお祈りをお願いいたします。前のページにも書きましたが、投稿する場合は、宇治の修道院の方へお送りください。

Eメールの場合は、従来通り、tokyo@carmel-monastery.jpです。
神に感謝。

(P. 九里)

